

今後の展望

KAPシステムと設備系CADとのデータ連携は数年ほど前から行われてきました、鉄骨躯体並びにスリーブ配置可能領域を3Dデータで渡すことにより、後戻りの少ない設備設計が可能になりました。鉄骨ファブにとってもスリーブ関連の変更修正作業が大幅に低減されます。将来的には鉄骨3Dデータと設備データをクラウド上に一元管理することにより、現場における早期の「物決め」に貢献していきたい。

工作図は鉄骨製作における情報伝達の一手段に過ぎない。必ずしも従来通りの紙媒体（2D図面）でなければならない理由はないと考えます。しかしながら、工場内で使用される工作図としては紙媒体が適しており、2D図面にならざるを得ない。

鉄骨製品モデルをわかりやすく表現できるのは3Dが適しており、上記図面間のジャンプや属性情報の確認も容易に行えます。製作工場ではなく現場における図面の確認作業においては、必ずしも紙媒体（2D図面）が適しているとはいえ、大型のディスプレイやタブレット端末のほうが適しています。

このようなことから従来の紙媒体（2D図面）に加え、3Dモデルに対し2Dの寸法線や引き出し線等アクセサリを加えた3D図面を新しい工作図として採用し、タブレット端末等に表示してはどうだろうか。3Dモデルと2D情報が同時に確認でき、モデル変更に対しても紙媒体と異なり再度出図し直す必要はなく、常に最新の図面情報を確認することができます。